荷を負ふものにニジリがある。前者を輕快と形容するならば後者は鈍重である。

淺ケ瀨で一軒の便所を窺つて見たが二枚の板を渡したものが二組あり、紙の代りに藁が用意せられてゐた。新庄ではマフヂの皮を剝ぐ老夫婦を見たが、これで織つた布は丈夫であり、且例へば蒸しものの時など麻布では米が引つついて駄目であるが藤布はさうでないとの話しであつた。また新庄では卯月(ウツキ)八日とて門毎に花を桿につけて立ててゐたのを見たのであつて、この耳川の谷には案外古式なものの保存せられてゐることを知つた次第である。民俗學者の採訪を期待する。因みに新庄の寺は禪宗である。

粟柄越は新庄方面では海津街道とも呼んでゐる。高島越といふよりは一層嚴密に、はつきりと海津への志向を示してゐると言ふべきである。(昭和十一年六月十六日)

二つの國際學術會議

今村學郎

一、バルト海沿岸諸國國際水學會議に於ける氷雪研究委員會の設立動議

一九三三年のレニングラードに於ける國際會議に際して、氷雪は特異の性質を有し、その分布が廣く、氷雪圏 Cryosphere を形成する等の事實から、從來のバラ〳〵の研究を國際的に統一する必要が感ぜられ、氷雪に關する文獻の蒐集、書物の編纂、定期刊行物の出版、國際研究

所の設置等が重要であるとされた。

又一九三四年のリガの會議では、ドブロウスキーの提案によつて國際氷雪會議が議題となりその第一歩として永續的に特別委員會を設けることが、アダムス、バーネス、デヴィーク、デベナム、イーヴ、ヘール、リュッチ、モウソン、マーカントン、メースヴェルド、ムンチ・ピーターセン、ピンコフ、プリーストリー、スヴェエルドラップ、ゼリグマン、ライト、ツークリーゲルの人々によつて賛成された。

今年九月エヂンバラで開かれる國際水學會議では、愈々氷雪學者の大同團結が實現されるらしく、その上は氷雪研究發表機關として La Glace を發行する豫定である。

日本は文明國としては有數の雪害國で、例へば昭和八年から九年への一と冬だけでも、八四四八〇六二五圓の損失があつたのである。[1] 無形の損失は更に著しいかも知れない。日本に特に必要な研究として地震や、颱風や、火事や、山火事が擧げられると同様に、毎年確實に數千萬圓の損失を繰りかへしてゐる雪害にも充分な研究が望ましい次第であつて、氷雪學の根本的研究は必ず實質的の利益をもたらすであらうと信ずる。敢て氷雪學會成立の氣運を報告する所以である。

二、アムステルダムの國際地理學會議

一九三四年のワルサウの決議によつて、一九三八年の七月十八日から二十八日まで、アムステルダムに國際地理學會議が開かれるといふ第一回の通知を受取つたので、大略を左に記述する。

特別委員會によつて報告が提出され、會議で論議されるものは六項目である。即ち

〔1〕人口問題と地方居住の問題が引續き論ぜられる。井上修次理學士の研究の如きはどうしても提出さるべきものと信ずる。居住の問題も單なる景觀や模様でなく、人類活動と自然環境との關係を突込んで論じなくては、とてもヨーロ

ッパの學界では相手にして呉れぬであらう。

〔2〕段丘の問題はユースタティックの主張が大半であらうから、本邦のオロジェニックの例を示すのも興味があるやうに思ふ。

〔3〕氣候變化の報告は從來あまり振はなかつたやうに思ふから、我が國の氣候學者に期待すること大なるものがある。特に材料を嚴密な數學的方法で扱つたものが望ましい。

〔4〕古圖の出版に關しては特に云ふ程でもあるまい。

〔5〕空中寫眞測量も同樣である。

〔6〕侵蝕面については地形學者と地質學者との協力が必要で、單なる切峯面のやうな室內作業の結果や、面の原因を知らずして任意に分類するやうなものは、提出して見ても仕方あるまい。

次に今回特に議題として選ばれたものは六つの部會に分れ、總計二十八題に上る。第一部會は圖學であつて、寫眞測量の理論及び實際が花形で、その他投影法や地圖の陳列などがある。

第二部會は甲乙の二つに細分せられ、甲は地形學のみであるが自然地理學部會の名稱を冠して居る。氷蝕と端堆石とが主な題目で、この外山麓楷が指定されて居る所を見ると、ヨーロッパでも山麓楷のことはよく分つて居るのでなく未だ充分實證的ではないことが察せられる。氷蝕は本邦には山頂の氷河地形のやうな好題目があり、又端堆石に關しては、本邦の大氷床論者から注目すべき報告を期待してよいかと思ふ。

第二部會の乙は海洋學で、海流や內部振動の外、南半球の海底地形の一項目がある。第三部會の甲は人文地理で、人口移動や人口集團は目新らしくもないが、家內工業或は半家內工業が農業地域に及ぼす好影響又は惡影響といふ出題は重要であり、特に社會的影響を考へて居るのは興味があり、新らしい人文地理の一進路を示して居る。尾原信彥理學士の濃尾の工業の調査は正にこの出題に適合して居るし、その研究態度も一致して居るかと思はれる。

第三部會の乙は經濟地理で、海港に於ける產業の發達や、各國に於ける運搬方法なぞは月並だが最後の題目は「土壤及び氣候の生產力を數量的に一層精密に表現することは可能であるか。かくて各國に於ける經濟力を(數量的に)比較する標準を得ることは可能であるか。」といふのであり、經濟地理を數量的に研究すべきことを明示し、經濟地理の根柢に自然條件が嚴存することを認めたものとして注意すべき題目である。

第三部會の丙は植民地理で、主催國の關心の深いものと見ることが出來る。內容は熱帶に於ける白人種の植民地經營の可能度、植民地の人口密度と土地利用、及び人口密度の甚だ大きい熱帶地方で、現在の繁榮を維持するに必要は工業化の問題であり、大して珍らしくはないが、會議の席上では恐らくコクのある發表があるであらう。本邦の所謂植民地理とかいふものゝ現狀を見て、多少考へさせられる所がある。

第四部會は歷史地理と地理學史で、測地學史やルネッサンスの影響や、古圖の解釋等が含まれて居て、現在の地理學の最前線とは緣が遠いが、第五部會に景觀を入れてあるのは面白い。然も地形圖を着色しただけの所謂景觀とは大した違ひで、景觀の人文地理に於ける意義の檢討や、人文現象の根柢としての景觀分析なぞは、相當深入りした議論になりさうに思はれる。最後に景觀の美を近代文明の中に保存するには、どのやうな目安によつたがよいかといふのがあり、一寸變つた出題である。

第六部會では地理教育が扱はれ、國際的に相互の了解を得せしめるために、地理はどれだけ役立つか、と云つた理想論から、地理教育では自然地理をどの程度まで教へるべきか、ダルトンプランを地理教育に應用することの利、不利と云つた實際的なものまで揃つて居る。

旅行は會議前に一つ、會議後に六つあり、最も大きい旅行は蘭領印度へ行くもので、七十日に及ぶさうだから大したものである。因みにこ

の國際會議は、所定の會費を拂ひ込めば、地理學會々員、地理學上の研究機關に屬する者、或は地理學教室に關係ある者ならば誰でも會員たることを得るのであり、その申込み先は左の通りである。

Internationaal Aardrijksk ndig Congres
Koloniaal Instituut
Mauritskade 63
Amsterdam O.

(1) 積雪地方農村經濟調査所編　昭和九年雪害狀況調査同所資料第十三號　昭和十年五月

銷夏南遊記

藤田元春

七月二十四日　午后一時天保山に出て別府通ひのすみれ丸にのる、二十三日の颱風の名殘にや港外浪やゝ荒らく舟少しくゆする、されど凉風楚々として塵外にあるの想あり。神戸港にたちよれば、川崎造船所には五ヶ月竣工の記錄に名聲をあげた二萬一千噸の捕鯨母艦日新丸の巨體、お尻をこちらにむけて、鯨を引き上げる巨口をのぞかせ、九分通りは既に出來上つてゐる、見るからに何とも心强い。播磨灘に入る頃浪全く靜まりて海上疊の如し。淡路島から小豆島、遠く鳴尾の沖すぎて、日漸く沒するの後、高松港につく。

七月二十五日　周防灘にて夜は明けぬ、豫山豐岳靈嶽として雲表にあり、午前八時別府につく直ちに上陸して旅館に投じ一浴、午後〇時二十分、熊本行の列車にのる別府は曾遊の地、三伏